

典礼のしおり

O Domingo № 35

PANIB 発行 25・8・2024

年間第二十一主日

私たちはイエス様ご自身とみ言葉のパンをいただくために集まりました。キリストの愛される教会、そのメンバーとして、私たちのキリストへの信仰を告白するよう招かれています。典礼と生活の中で彼に奉仕することが出来るためです。今日は、特に、共同体の中で様々な奉仕に献身されているすべての人々、特にカテキスタの為に祈りましょう。

入祭唱

神よ、わたしの叫びに耳を傾け、より頼むしもべを救ってください。主よ、あわれみをわたしのの上に。わたしは昼も夜もあなたを呼び求める。

栄光の賛歌

集会祈願

永遠の父よ、約束された聖霊を待ち望むわたしたちの祈りを聞き入れてください。移り変わる世界の中にある

って、わたしたちが心を一つにして愛のおきてを守り、いつもまことの喜びに生きることができましように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。

※ 解説

神のみ言葉は、私たちに、主に仕えるために歩むべき道を示します。イエスは私たちが互いに愛し合うと言う体験へと導く永遠の命の御言葉をお持ちです

ヨシユア記(ヨシユア 24・1・2a、15・18)

「その日、」ヨシユアは、イスラエルの全部族をシケムに集め、イスラエルの長老、長、裁判人、役人を呼び寄せた。彼らが神の御前に進み出ると、ヨシユアは民全員に告げた。

「もし主に仕えたくないというならば、「ユーフラテス」川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。」民は答えた。

「主を捨てて、ほかの神々に仕えることなど、する

はずがありません。わたしたちの神、主は、わたしたちとわたしたちの先祖を、奴隷にされていたエジプトの国から導き上り、わたしたちの目の前で数々の大きな奇跡を行い、わたしたちの行く先々で、またわたしたちが通って来たすべての民の中で、わたしたちを守ってくださった方です。わたしたちも主に仕えます。この方こそ、わたしたちの神です。」

答唱詩編 〇典 12801 〇5 〇6

(詩編 34・2+3' 16+18' 19+23)

朗・主を仰ぎ見て、光を受けよう。

主が訪れる人の顔は輝く。

全・主を仰ぎ見て、光を受けよう。

主が訪れる人の顔は輝く。

主をたたえよう、明け暮れ賛美を口にして。

主はわたしたちの口の誇り、苦しむ時の心の喜び。

全・主を仰ぎ見て、光を受けよう。

主が訪れる人の顔は輝く。

主のまなざしは正しい人に、耳は彼らの叫びに。

主は正しい人の声を聞き、

悩みの中から救ってください。

全・主を仰ぎ見て、光を受けよう。

主が訪れる人の顔は輝く。

主はしいたげにあう者のそばにおられ、

失意の人を支え、主はそのしもべの魂をあがない、

より頼む人を滅びから救われる。

全・主を仰ぎ見て、光を受けよう。

主が訪れる人の顔は輝く。

使徒パウロのエフェソの教会への手紙

(エフェソ 5・21-32)

「皆さん、」キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになつたように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何

一つない、聖なる、汚れない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。そのように夫も、自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。わたしたちは、キリストの体の一部なのです。「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ。

主よ、あなたのことは霊であり、いのちです。あなたは永遠のいのちのことはをもっておられる。

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ。

ヨハネによる福音（ヨハネ 6・60―69）

「そのとき、」弟子たちの多くの者は「イエスの話を聞いて言った。「実にひどい話だ。だが、こんな話を聞いていられようか。」イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。「あなたがたはこのことにつまずくのか。それでは、人の

子がもといた所に上るのを見るならば……。命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。しかし、あなたがたのうちには信じない者たちもいる。」イエスは最初から、信じない者たちがだれであるか、また、御自分を裏切る者がだれであるかを知っておられたのである。そして、言われた。「こういうわけで、わたしはああなたがたに、『父からお許しがなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのだ。」このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなつた。そこで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいか」と言われた。シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましようか。あなたは永遠の命の言葉を持つておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」

信仰宣言

共同祈願

司・命と自由の源である主イエスに、私たちの必要を示しながら私たちの祈願を捧げましょう。

1・シノドスに向かって歩んでいる教会が、ご聖体に

養われ、み言葉を聴き、黙想し、これらの糧をとうして、キリストに従う忠実さを新たにすることが出来ますように。

全・主よ、私たちの祈りを聞き入れてください。

2・統治者たちの為に祈りましょう。正義と誠実と他者をいたわる神のみ言葉の真理に照らされ社会の中で苦しんでいる弱い立場の人を守ることが出来ますように。

3・キリスト者が、イエスが神でありながら人性と神性をもつていられることを認識し、最も弱い人々の内にも神の存在を認め、全ての人のの中にも居られる神の存在を尊敬することが出来ますように。(全)

4・私達の家族が愛と対話のうちに、相互の受け入れあいに務め、全ての暴力的な関係を取り去ることが出来ますように。(全)

5・共同体の様々な奉仕に召されている人々、特にカテキスタの為に祈りましょう。自分の献身が神に捧げる寛大な奉仕であることを弁え、根気強く、喜んで歩むことが出来ますように。(全)

司・召命の月の最後の日曜日にあたり召命の祈りを交互に祈りましょう。

1・主イエスよ、御父から聖霊を注がれ、心を燃え立

たせて歩み始めた私たちが、召命の使命の大切さを見分けることが出来ますように。

2・家族、子供たち、青少年、大人たちが、未来への夢をもち続け、教会と社会において、御国の奉仕の為に、奮発をもって捧げることが出来ますように。

1・新しい世代の人々を、信徒使徒職、婚姻、奉獻生活、聖職者への召命に目覚めさせてください。

2・聖母マリア、宣教師の母なる教師、召命の福音に耳をかたむけ、応えることをおしえてください。

アーメン

奉納祈願

聖なる父よ、あなたは、十字架に上げられたキリストの奉獻によってわたしたちを集め、新しい民としてくださいました。教会に、平和と一致の恵みを豊かにお与えください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

秘跡を通して働かれる神よ、わたしたちにゆるしといやしをお与えください。あなたの愛のうちに成長し、いつもみ旨にかなう者となりますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。